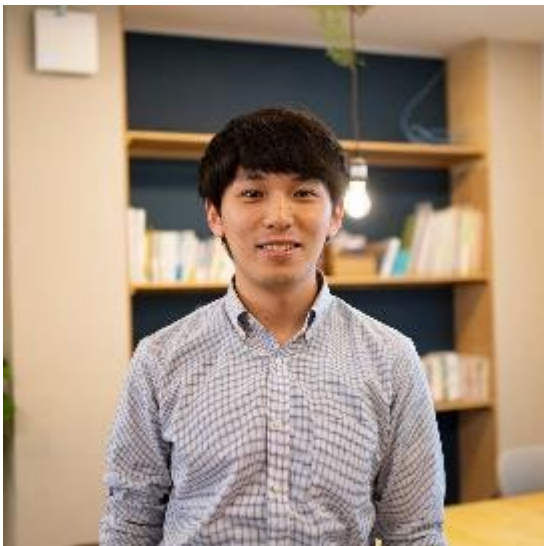


# オンラインを活用した学校間連携の可能性

認定NPO法人カタリバ  
「学校横断型探究プロジェクト」の事例から

# 自己紹介



## 起塚拓志 (おきづか たくし)

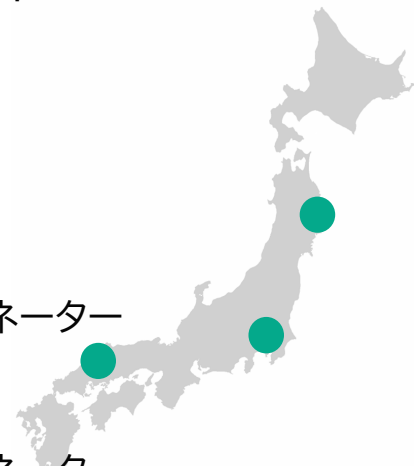
認定NPO法人カタリバ  
学校横断型探究プロジェクト 事業リーダー

2016年 広島県立大崎海星高校  
高校魅力化インターン

2017年 NPOカタリバに参画  
島根県雲南市  
教育魅力化高校コーディネーター

2019年 岩手県大槌町  
大槌高校魅力化コーディネーター

2021年～ 学校横断型探究プロジェクト  
ルールメイキング事務局



# 認定NPO法人カタリバとは

カタリバは、日本全国で活動する、創業22年目のこども教育福祉領域のNPO

## ビジョン

どんな環境に生まれ育っても、未来をつくりだす力を育める社会

## ミッション

意欲と創造性をすべての10代へ

## アクション

子どもたちに「サードプレイス（自分で選択した居場所）」と  
「サードリレーションシップ（ナナメの関係）」を届け、学びを支える力を育む

### First

家／親と子ども



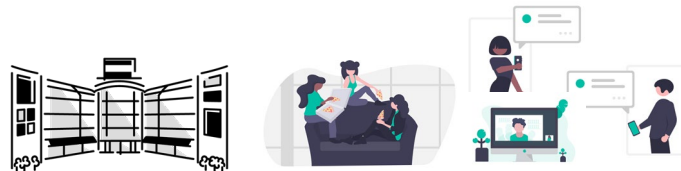
### Second

学校／先生と児童生徒



### Third

自分で選択した居場所／ナナメの関係



ナナメの関係：タテ（親・先生）でもヨコ（同世代の友人）でもない、新たな視点をくれる一歩先ゆく先輩

# 主な拠点



424人のボランティアキャストが  
3,696人の生徒へ「ナナメの関係による  
本音の対話」を届けました。



全国の高校生**69,985人**が  
マイプロジェクトに挑戦しました。



不登校の小中学生**105人**を、  
オンラインでの学びの機会に  
つなぎました。



キックアッププログラム

ヤングケアラーを含む生活困窮世帯の  
全国**391人**の子どもたちと  
その保護者**274人**に、  
オンラインによる伴走支援と  
学びの機会を届けました。



RULE MAKING

全国 | 探究的な学び

全国**61校**の中学生**753人**に、  
「校則を主体的に見直す対話の機会」を  
届けました。



## 雲南市教育魅力化プロジェクト

高松県雲南市 | 探究的な学び

雲南の未来をひらく  
高校生**468人**に  
「地域ならではの教育プログラム」を  
届けました。



おんせんキャンパス

高松県雲南市 | まなびにつなぐ

不登校の小中学生**71人**に、安心できる場と  
学びの機会、社会とのつながりを届け、  
保護者**71人**に寄り添いました。



東京都文京区 | 探究的な学び

中高生の秘密基地を  
**2,702人**が利用しました。



## 大槌高校魅力化プロジェクト

岩手県大槌町 | 探究的な学び

大槌高校の生徒**213人**に  
復興を担う人材となるような  
探究的なカリキュラムを届けました。



東京都荒川区 | まなびにつなぐ

困難を抱える子どもたち**241人**に、  
学習や食事、体験活動を届け、  
自立する力を育みました。



東京都 | まなびにつなぐ

外国ルーツの高校生たち**221人**の  
学びに伴走しました。



## ユースセンター-起業塾

全国 | 探究的な学び | まなびにつなぐ

10代のための場づくりを  
全国**12道県14団体**と共  
**654人**の子どもたちに  
居場所を届けました。



新潟県村上市・静岡県熱海市伊豆山地区 | まなびにつなぐ

豪雨で被災したのべ**741人**の子どもたちに、  
のべ**19人**のボランティアと共に  
「安心して過ごせる居場所と学びの場」を  
届けました。



- カトリック場雲南地域
- マイプロ地域Summit開催地
- sonseru活動地域
- コラボ・スクール拠点
- 大槌高校魅力化プロジェクト拠点
- おんせんキャンパス拠点
- 雲南県教育魅力化プロジェクト拠点
- Roots拠点
- b-lab拠点
- アガチベース拠点



被災地の「教育後学校」

コラボ・スクール

女川南学校(宮城県女川町)・大槌臨海学校(岩手県大槌町)・  
双葉みらいラボ(福島県双葉郡) | まなびにつなぐ

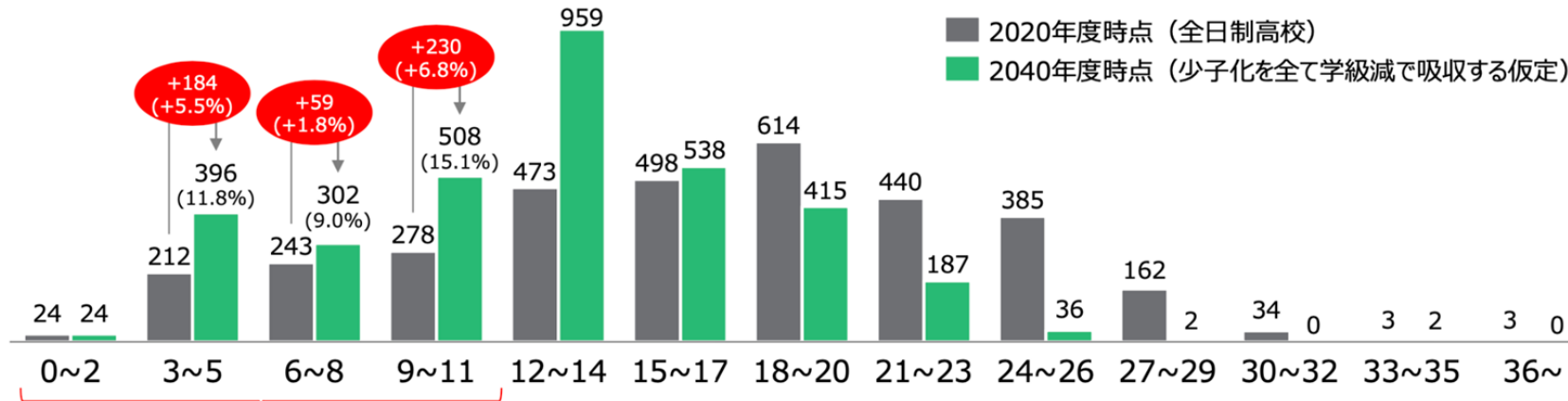
**1,160人**の東北の小中学生に  
「未来を思い描く力」を届けました。



## 学校の小規模化が全国的に進行していく見込み

- ① 高校数自体の減少により、集まる生徒の学力や関心のバラつきが大きくなる
- ② 高校当り生徒数の減少により教育リソースや学び合いの機会が制限される 状況が進展

学級数別学校数（全日制高校3,369校）



所謂「小規模校」  
(11学級以下で統廃合もあり得る規模) は  
2040年、1,230校 (全体の37%)

- (方法) 1. 学校基本調査「学級数別学校数」(令和2年度) 統計を基礎に、1学級40名として、学級数別に各学校の全校生徒数を推定。  
2. 国立社会保障・人口問題研究所 男女年齢5歳階級別人口 出生中位(死亡中位)推計を基に、2020年から2040年の生徒数減少幅を22.9%とし、各学校の2040年の生徒数を計算 (※今回は簡易的なシミュレーションのため、都道府県・学校によるばらつきはないものとし、全国・全校一律で22.9%減少すると仮定)。  
3. 各学級が40名以下になるように学級を編成するという前提で、2040年段階の学級数別学校数を試算。

## 小規模校は探究学習支援における課題が生じやすい

学習指導要領がめざす探究活動の方向性を達成するには、個々人の興味関心に応じた出会いや学びの資源との接続が必要である。一方、小規模校では生徒・教員が少ないことから、生徒の主体的な探究活動を実施する上での課題が生じやすい。

### 高等学校「総合的な探究の時間」でめざされている方向性

#### 生徒がみずから問いを見出し、課題を立てる探究

##### ■高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 「総合的な探究の時間編」より抜粋

・総合的な探究の時間で育成することを目指す資質・能力を育むためには、**自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題**を自ら発見し、よりよい解決に向けて主体的に取り組むことが重要である。

・重要なのが、**実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てること**である。(中略) 自己の常識に照らして違和感を感じる問題があることなどを発見し、それが問題意識となり、自己との関わりの中で課題につながっていく。

### 小規模校で生徒の主体的な探究活動を実施する上での課題

#### 生徒側の課題

- (1) 同調圧力が働きやすく 価値観が固定化し やすい  
同調圧力が働きやすく、スクールカーストの中で、自分の意見を言いづらい。また、同じテーマに興味・関心をもつ同級生と  
おける生徒同士の学び合いが起きにくいことがある。
- (2) 生徒の興味関心と教員の専門性がマッチしづらい  
自分が持ったテーマの専門領域に詳しい教員がおらず、探究を  
深めるための支援を得られにくい場合がある。

#### 教員側の課題

- (3) 探究学習の支援に対する知見不足に陥り やすい  
探究学習が授業で本格的に開始する中、教員数が少ないために  
学校内に蓄積される知見が乏しい。あるいは指導の仕方が固定化  
し、柔軟な方法を試すことができない。



## 小規模高校での教育資源をシェアする オンラインネットワークをつくる

学校規模によるハンデを持つ小規模校（高校）を対象に、  
「総合的な探究の時間」の授業や放課後でのオンライン複数校連携を行います。

生徒の探究活動を学校横断ネットワークで相互支援するモデルをつくり、  
全国の小規模校で「誰もが行きたくなる」教育環境を実現することを目指します



## 個別の興味関心にあわせて、小規模高校でも仲間や支援者につながるができるネットワーク

小規模高校同士がオンラインでつながり、各校がもつ多様な人的リソースや、放課後のオンライン活動を共有することで生徒の関心にベストマッチした支援をめざす。

### 複数校オンライン連携による探究支援機能のシェア

#### 【多様な伴走者】

- 教員の専門性
- 外部専門家

#### 【多様な学びの場】

- 連携授業
- 放課後での繋がり

#### 【多様なナレッジ】

- 探究活動の支援事例・教材



一人一台端末環境を前提とした  
高校での学びの可能性

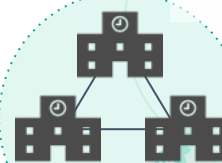


人口減少地域の小規模高校



生徒が学び合う  
放課後オンライン活動

小規模高校  
オンラインネットワーク



連携グループでの  
合同授業



多様な伴走者の  
参画・シェア

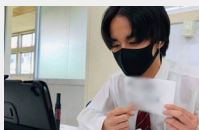


## ① 授業内連携

### ① オンライン合同授業（3～4校の授業時間をあわせて実施）

#### 1) アイスブレイク交流

学校を越えた最初の出会いの場で、自分の地域や学校の紹介を行い、お互いへの関心を高める。オンライン上での円滑なコミュニケーションの方法を身につける機会としても活用。



#### 2) 探究テーマ交流会

探究のテーマや進捗状況ごとに組まれた学校横断グループで、探究の活動内容を共有し合う。生徒だけでなく各校の教員や外部のサポーターも加わり、生徒の関心にあわせて応援のコメントやアドバイスを行う。



#### 3) 相互発表／振り返り会

探究の過程や成果をお互いに発表し合い、コメントやフィードバックを行う発表会を開催する。リアルな人間関係の外側にいる同級生からの質疑や称賛を通じて、自分が得た学びに対する自信を高める機会とする。



### ② メタバース探究部屋

#### 2次元メタバースを活用し、総合探究の授業時間に連携

カタリバスタッフ等との壁打ち相談や、生徒同士の交流を実施

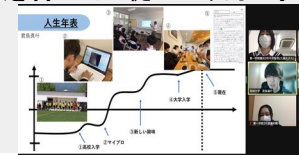


## ② 放課後での連携

### 共通プログラムとして全校を対象に実施

#### 放課後交流プログラム

探究活動を積極的に深めていきたい生徒を主な対象として、放課後を活用した交流活動を実施。問いの立て方や探究活動の深め方を聞く会を開催し、意欲を持った生徒が日常的に学校を越えてつながり、探究を深め合うことができる機会につなげる。



## ③ 教員間交流・研修会

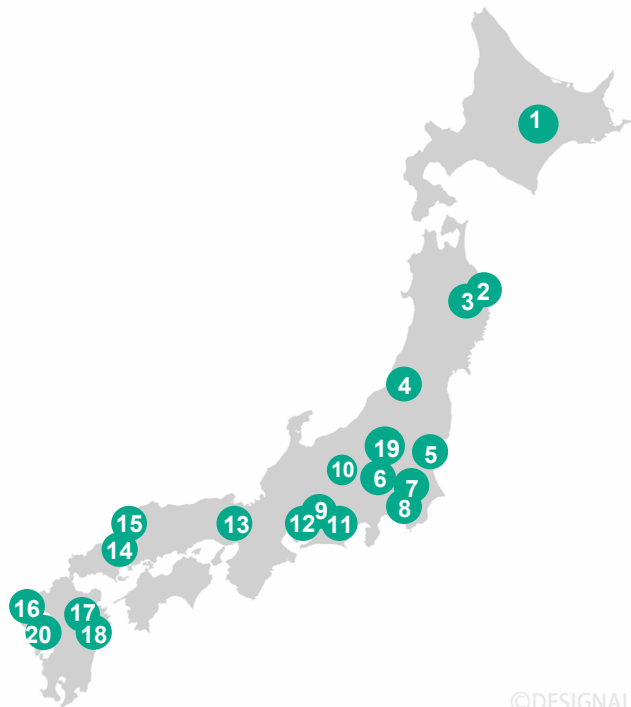
探究活動に関する教員間交流および研修会を設定。同じ課題をもつ教員同士の連携により、各校の探究活動支援に対する効率的な不安解消をはかる。探究活動支援の実践的なノウハウを得られる機会を複数校で共有する。

複数校合同研修▷





## 全国20校が参加する 小規模高校ネットワーク



©DESIGNALIK

グループ	位置	学校名	参加生徒数	参加年度
A	7	中村高等学校	23名	2023年度
	12	愛知県立足助高等学校	40名	2023年度
	15	島根県立浜田商業高等学校	20名	2023年度
	16	長崎県立猶興館高等学校	87名	2023年度
B	3	岩手県立金ヶ崎高等学校	45名	2023年度
	17	熊本県立小国高等学校	54名	2021年度
	18	宮崎県立高千穂高等学校	89名	2021年度
C	1	北海道鹿追高等学校	31名	2023年度
	2	岩手県立大槌高等学校	59名	2021年度
	11	静岡県立川根高等学校	28名	2023年度
	19	栃木県立足利特別支援学校	1名	2022年度
D	4	山形県立小国高等学校	30名	2021年度
	9	長野県阿南高等学校	40名	2023年度
	13	京都府立須知高等学校	19名	2023年度
	14	島根県立吉賀高等学校	35名	2022年度
E	5	茨城県立小瀬高等学校	33名	2021年度
	6	埼玉県立越生高等学校	85名	2023年度
	8	第一学院高校横浜キャンパス	30名	2021年度
	10	長野県軽井沢高等学校	5名	2023年度
熊本県教委 連携実証	20	熊本県立 天草拓心高校	本渡校舎 30名 マリン校舎 15名	2023年度

①

## 複数校オンライン合同授業

3校～5校を接続し、オンラインでの合同授業を実施。自分の学校では出会えない多様な生徒・サポーターと交流し、探究活動の相互応援や質疑応答を通じた気づきを生むことをねらう。サポーターには教員と外部人材を組み合わせ、生徒の探究テーマに近い専門領域をもつ人員を配置。



### 第1回アイスブレイク交流会（実証期間前）

#### <内容>

- ・オンラインに慣れること・連携参加校同士の相互理解を深める
- ・学校紹介やアイスブレイク活動

### 第2回探究テーマ交流授業

#### <内容>

- ・探究テーマが近い生徒同士で4名程度のグループをつくり、お互いの探究活動内容を紹介
- ・グループに1名ずつ大人のサポーターをつけアドバイス・司会進行

### 第3回合同発表・振り返り会

#### <内容>

- ・探究テーマが近い生徒同士で4名程度のグループをつくり、お互いの探究活動内容を紹介
- ・グループに1名ずつ大人のサポーターをつけアドバイス・司会進行

## ② メタバースを活用したオンライン連携

2次元メタバース「MetaLife」を活用し、合同授業以外でのオンライン連携を実施。  
放課後交流プログラムとして大学生との交流企画や、関心が近い生徒同士を個別に接続する活動を実施。  
加えて、通常の探究授業時間が重なっている学校を対象とし、探究活動の個別相談スペースを開室。

### 放課後交流企画

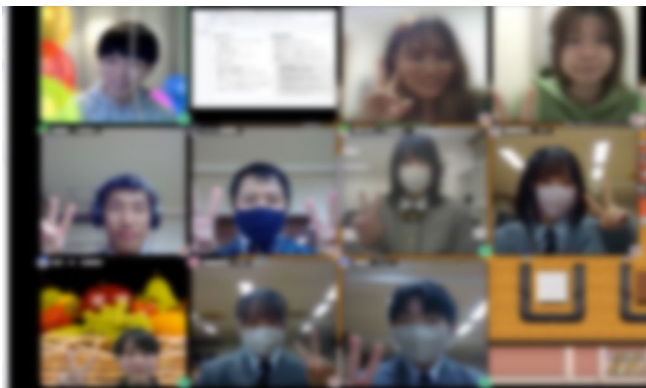
複数校が共通して関心をもつテーマに関する交流会  
探究活動の経験者によるゲストトーク 等



▲探究の経験がある大学生を交えた放課後交流の様子

### 探究テーマ交流会

同じ領域の探究活動を行っている生徒同士を  
個別につなぎ、活動紹介や意見交換



▲「校則の見直し」をテーマにしている生徒同士の交流



学校の端末から接続



岩手県立大槌高校  
Yさん

私は防災意識について探究していますが、自分の学校には似たテーマを選択している子がいないので、他地域で似たテーマについて話せる機会がたくさんあるといいなと思っています。

中学校の頃から同級生が40人くらいほどの小規模校で、他の学校と交流することはほとんどありませんでした。オンラインで他校の生徒と話すのは最初は緊張しましたが、みんな思ったよりもフレンドリーに接してくれたり、自分の活動にアドバイスをくれたりして、今は交流が楽しいと思っています。

この間、山形小国高校の生徒とオンラインで交流をしたときに、今年の台風の被害状況について話を聞きました。その子も台風がきっかけで防災関係の探究を始めたと聞いて親近感がわき、仲間が見つかったような気持ちになりました。





栃木県立足利特別支援学校  
Tさん  
(小学校時代から同級生2名)

普段は関わることができる人が本当に少ないので、こんなに大勢の人と話すことができ、本当に楽しかったです。

いろんな方と交流するいい時間になりました。普段の学校生活では人数が少なく視野が狭かったですが、この活動を通して他の人の探究を聞くことができ、一人一人の生き方も知ることができて楽しかったです。



茨城県立小瀬高校  
Mさん

自分のやっている探究活動に意味があるのかわからなかったが、同じグループの人やサポーターが自分のテーマをおもしろいと言ってくれて嬉しかった。

いろいろコメントをもらって、自分の活動にも需要があることがわかり自信がついた。

「今思えば、他県の初対面の同級生はみんなとても話しやすかったです。すごく遠くにいる子の方が、いい意味でお互いのことを知らないので、人間関係や性格を気にせずに話しやすかったのかなと思います。」

「他の地域の方は、『え、そんなことに興味あるの?』っていうようなのがいっぱいあって面白い。でも話を聞くと、たとえば「鬼滅の刃」が全然違う都道府県でも流行ってたりするの聞くと、違うだけじゃなくて「こんなに一緒なんだな」ってなるので不思議」

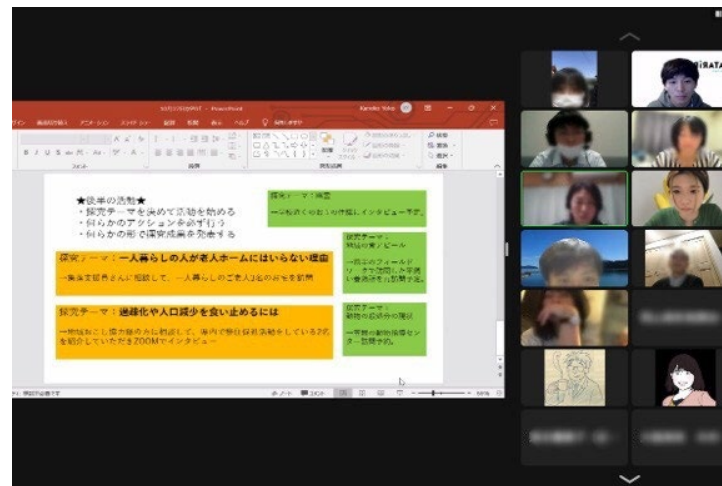
「オンラインで話す人は、自分のことをちゃんと聞いてくれている感じがして、興味持ってくれてるんだなって感じで嬉しい」



## 試行錯誤の過程を共有できる学び合いに

### 事例)

- ・ 「探究を深めるための指導法とは？」をテーマにした集合研修
- ・ 探究カリキュラムの改善に関する相談研修会
- ・ 教員の探究支援スキルに関する座談交流会
- ・ 探究活動の資金獲得方策（クラウドファンディング等）に関する情報交換
- ・ 「問いを立てる」活動の教材に関する情報交換会



「学校が違って、みんな同じような悩みを持ってんだとか、  
そういうことを実感できるだけでも心の栄養になるので。  
解決策も見つかればいいし、つながりはまずはそういうところが大事ですかね」

「学校の中の教員は数が限られるので、外部に相談できる相手がいることは  
心強いというか、ほっとしますね。  
同じような悩みを通り過ぎてきたなと思うこともあるので」

「教員も、仕事に追われて新しいことに踏み出すのが難しい現実があるので、  
悩みを共有したり、新しい見方や考え方に出会ったりして、良い機会になりました」

「これまでに与えられてきた研修では、成功事例は学べるが、  
学校の背景がかなり違っていたり、そこに至るまでの過程や、悩みの部分までは見えなかった。  
地域は違って学校背景が似ているので、安心します」

## ”越境 (boundary crossing)”

### 「境」は前提の共有度

前提（社会的文化的な背景）の共有度が高いと、  
コミュニケーションに「阿吽の呼吸」「わかったつもり」が増え、  
語られないことが生まれてくる（田島,2013）

- ▶前提の共有度が低い他者（異質な他者）との関わりは、  
学びに必要な「語り直し」「捉え直し」の契機となりうる

「自分の探究に関する鋭い質問が飛んでくることが多く、  
その度に自分の感情を言葉にすることができたと思う。」

- ▶生徒だけでなく、教員同士の学びにもあてはまる

田島充士「異質さと共創するための大学教育：ヴィゴツキーの言語論から越境の意義を考える」,京都大学高等教育研究第19号,pp73-86,2013年

- ひとりひとりの、よき学び相手との出会いを保障するために、  
学校同士がもっと設置者や学校種の枠をこえて連携してはどうだろうか
- 学び手と支援者がベストな出会いをするために、  
既存の枠を越えるようなつながりを、  
テクノロジーを使って模索してはどうだろうか
- 成功事例だけではなく、  
失敗や試行錯誤を共有しあえるようなコミュニティが  
もっと先生に必要なのではないか